比率は15・60％（前年度対比1・17％増加）と改善されたほか、不良債権比率も4・07％（前年度対比1・43％減少）と大幅に改善されました。事業利益においては、貸出金や青果物取扱高の減少などで事業収益は伸び悩んだものの、事業管理費の節減などに取り組んだ結果、8，144万円（前年度対比2，006万円増加）を計上しました。また当期剰余金は7，462万円（前年度対比3，558万円増加）となり、引き続き出資配当をご提案することが出来ました。

◎各事業の質向上を図る

基幹作物の稲作では、集荷数量は25万1626俵（計画対比89・8％）となりましたが、放射能汚染問題による風評被害で価格が高騰し、販売高は35億8，216万円（計画対比106・2％）と計画を上回りました。

青果物では、主力作物のねぎをはじめ、各作物で生育の遅れが見られ、青果物全体の販売高は12億1，635万円となりました。

購買事業では、組合員のニーズに応じた資材やサービスの提供を行い、供給高全体で32億2，270万円となりました。

信用事業では、組合員対象定期貯金「白神のきずな」などを実施したほか、農業機械購入資金の特別金利キャンペーンや、大雪被害への復旧支援などを通じて、利用者基盤の維持と拡充を図りました。

共済事業では、東日本大震災以降に注目された、建物更生共済「むてき」などを積極的に提案し、組合員ニーズへの対応強化に努めてまいりました。

◎農業振興を推し進め地域の『食と農』を守る

第五次3カ年計画の最終年度にあたる24年度では、基本方針に基づいて、各事業の実践に取り組んでいきます。

方針①「多様な担い手・組織の経営確立による水田農業の振興」として、「TAC」を設置し、担い手育成に努めます。また、カントリーエレベーターの利活用によって、農作業の軽減や生産コストの低減を図ります。

方針②「『食と農』を軸とした地域活性化と生活福祉活動の実践」として、生産履歴記帳の徹底や、玄米管理システムの活用による出荷体制の整備のほか、女性部組織と協力したJA食農教育と、地域コミュニケーション活動の推進を行います。

方針③「大転換期を乗り切るJA経営の変革」として、他JAとの合併協議や、コンプライアンス態勢の強化と内部統制整備、組合員メリットの創出と組合員加入促進などを通じて、組織基盤を強化してまいります。

▶TPP交渉に反対する声明文を読み上げる藤田青年部長

第14回通常総代会表彰者

永年勤続者

○協同班長

袴田　哲正（のしろ東）
大高　敏（のしろ北）
佐藤　純逸（のしろ北）
秋林　靖一（二ツ井）
大郷司　進（二ツ井）
成田　菊一郎（二ツ井）
工藤　忠（二ツ井）
成田　一豊（藤里）
伊藤　礼二（藤里）
市川　市治（藤里）
成田　富貴子（藤里）
石田　良治（藤里）
伊藤　金雄（藤里）

○職員

勤続30年

武藤　玲子

勤続20年

安部　茂樹
須原　秀則
工藤　秀一
成田真紀子
清水美由紀
清水美奈子
船越志保子
小山　満敬
伊藤　隆一
藤嶋洋一郎
小山　利彦
佐藤　賢幸

▶表彰を受ける協同班長